

令和7年度 第4回 大庭と小糸みんなの学校運営協議会 会議録

開催日時 2026年2月26日（木）10時00分～13時00分

開催場所 大庭小学校 ランチルーム

<p>参 加 者</p>	<p>細沼 恵美子（大庭と小糸みんなの学校運営協議会会長／湘南大庭地区子どもサポート会議会長） 小澤 明雄（副会長／藤沢市立大庭中学校 校長） 松川 裕子（副会長／藤沢市立小糸小学校 校長） 澤野 美奈子（副会長／藤沢市立大庭小学校 校長） 大塚 真奈（湘南大庭市民センター センター長） 綾部 幸恵（大庭小学校 保護者） 金田 久美子（小糸小学校 保護者） 坂本 哲也（藤沢市社協地域福祉課 湘南大庭地区担当 CSW） 大竹 貞代（藤沢若葉幼稚園 園長） 土屋 広美（地域子どもの家ちびっ子ドーム） 山本 幸一（小糸小学校区放課後子ども教室推進事業運営委員会(こいとっこ委員長)） 飯島 広美（元藤沢市教育委員）</p> <p>-----</p> <p>出席委員：12名（欠席委員：3名） 事務局：大村 裕美子（藤沢市立大庭中学校 教頭） 宮本 一也（藤沢市立大庭小学校 教頭） 当日運営・司会 上村 辰男（藤沢市立小糸小学校 教頭）</p> <p>その他出席者：0名 傍聴人数：0名 オブザーバー：0名</p>
<p>次 第</p>	<p>【第1部】 1. 開会 2. 会長及び任期満了確認 3. コーディネーター活動報告 4. 議題 (1) 3校学校評価について ・各校校長より説明 ・各校グループに分かれ熟議 4. 閉会</p> <p>【第2部】 1. 校内見学・授業参観 2. 給食試食</p>
<p>協 議 内 容</p>	<p>(1) 各校コーディネーター報告 ○大庭中学校コーディネーター 大庭中の学校公開ツアー(11月・1月)を実施。在校生保護者等が参加した。教育委員会職員も同行。小学校別の個別相談・ルート変更等に対応。生徒・教職員協力で教室内見学が円滑に行えた。</p> <p>c o c o nの保護者相談は夏休み明け減少から年明け増加傾向であった。いじめ、登校困難、部活動退部などの相談が増え、進級・入試発表前の不安増大に対し橋渡し役として迅速</p>

に対応した。

3名のコーディネーターは、毎月4時間以上活動。1/21に行われた葉山町長柄小学校(校内コミュカフェ)を視察した。

○小糸小学校コーディネーター

小糸東地区で2/19に第1回コミュニティカフェを開催。おはようボランティア以外の見守り拡大策を検討。長柄小事例から地域差を認識し、学校・地域・コーディネーターが緩やかにつながる場づくりを模索中である。

○大庭小学校コーディネーター

地域との更なる接続が必要。自治会(買い物対策委)への参加予定。PTA保護者交流会で「話せる場」需要を確認。先生への相談ハードル、懇談会参加率低下が課題。コーディネーターが保護者と教員の橋渡しを担いたい。

【議題】

(1) 学校評価

○大庭中学校

アンケートは紙から匿名オンラインへ移行し、提出容易化で件数増。記名・匿名混在、個人的感想がある。批判のみの内容だと残念な気持ちにもなる一方で、「ありがたい」「感謝している」という内容も職員に伝えている。

○小糸小学校

「わからない」選択肢追加により校内での取組の見えにくさが確認できた。PTAがないため、学級代表者会で情報共有会を実施。担任以外の教員(児童支援担当、SC、養護教諭)が保護者に分かりやすいように説明を行った。

子どものSOS発信が低い傾向に対し誰にでも相談してもよいこと、相談できる体制についての周知を継続する。学校の相談対応プロセスを具体的に発信し、不透明さの解消を図る。

○大庭小学校

「先生はわかりやすく教える」評価は9割以上だが、「授業内容の理解・定着」評価が低下。算数で既習事項を「アイテム」として提示・活用する校内研究を実施。基礎力の定着の支援方法に課題が残る。

児童は「楽しく通っている」割合が高め。昨年度比で保護者評価は複数項目で上昇(AB評価合計増)。児童は「いじめ指導」「誤った行動への指導」への信頼が高く、教職員は「いじめ未然防止・早期発見」に高評価となった。

(2) 各校グループに分かれ熟議(25分程度)

○大庭中学校

- ・全体的に大庭中は落ち着いている。
- ・今年度、大庭中コーディネーター発信で学校公開ツアーやCoconの開設を実施し、学校と保護者を繋ぐ取組を積極的に行うことで、より学校の様子を理解していただいた。
- ・職業体験や情報発信のすぐえるの有効活用について話題が出た。

○小糸小学校

- ・様々な場面であいさつの大切さを伝えている。
- ・児童が悩みを一人で抱え込まないように相談窓口を伝えSOSを出しやすい体制づくりをしている。
- ・今年度は学校公開を行い、学校の様子を見えやすいようにした。
- ・地域で見守る体制をどうつくれるかということが課題である。
- ・地域で見守りの目を増やせるように自治会に子どもの様子を発信する。社体協などのイベントを通して、世代間交流をすることも必要と考える。
- ・防犯情報をいち早く入手するには、ピーガルくん等を登録しているとよい。

○大庭小学校

- ・児童の回答は全体的に AB が多く、穏やかに素直に育っていると感じる。
- ・学習や授業の内容理解の低さや、自信のなさが表れている。
- ・発言したいが、授業中のルールがあって言えないのか、恥ずかしさで言えないのか判断が難しい。
- ・大庭小学校では (PTA や地域も含め) 楽しい行事がたくさんある。子どもたちも楽しめているようだ。
- ・あいさつについては、低学年で定着を図るとよい。大庭の子はあいさつ上手と感じる。
- ・発達段階にもよるが、相談したいができなくて困っている子が多くいる。保護者も同じで、こんなことを相談したら先生に申し訳ないという遠慮がある。先生が忙しそうで声をかけづらいのか もشれない。子どもの一方的な話だけで判断したり、相談すること自体が苦手で、一人で悩みを抱えたりしている保護者も見られる。

以 上